

検証授業Ⅱにおける検証

(1) 研究の視点

- ① 「一人学び」の力を育てる複式指導の充実
- ② 「とも学び」の力を育てる複式指導の充実
- ③ 学習環境の工夫

(2) 検証授業Ⅱの単元名及び実施学年

単元名	3年生 「円と球」	4年生 「面積」
実施学年	3・4年生 3年生8人 4年生1人	
実施時期	令和元年10月31日	

(3) 検証授業Ⅱで身に付けさせたい力

3年生 直径の性質を基にして、円の中心の見付け方を見出し、円を描くことができる
--

4年生 ア 広さの比べ方を考えることができる。 イ 任意の単位をもとにして広さを表し、比べることができる。

(4) 検証授業Ⅱの内容

ア ノートのひな型を作り、書く内容、書く順序、消しゴムを使わないなどを統一することによって、共通したノート記述ができるようにする。 イ 既習事項の提示や多様な考えが出そうな教材の用意をすることで、数学的な見方・考え方ができるようにする。

(5) 検証授業Ⅱの実際（下記参照）

(6) 成果と課題

① 成果

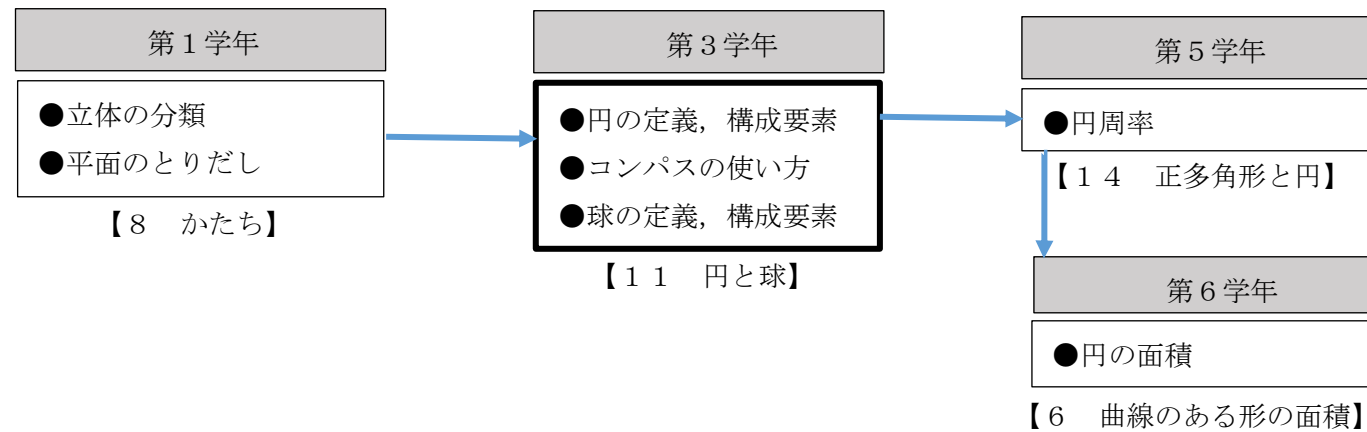
ノートのひな型を作って、ノートの書き方を統一した結果、児童同士のノートの見せ合いが分かりやすくなり、話し合い活動がスムーズに行えた。また、数量や図形等に注目して物事の特徴や本質を捉えるように、発問を工夫したり教材を用意したりすることで、どんな既習事項を使って考えればよいか、児童が気付くことができた。

② 課題

導入からまとめまでの時間を短縮し、習熟を図る時間を確保する必要がある。そのためにはICTの効果的な活用を図る必要がある。また、一人学級の児童が課題解決に集中して取り組む手立ても必要になってくると考える。

令和元年10月31日(木) 5校時
 3年 男子5名 女子3名 計8名
 4年 男子1名 女子0名 計1名

- 1 単元
第3学年 「円と球」
- 2 単元について
(1) 単元の位置とねらい



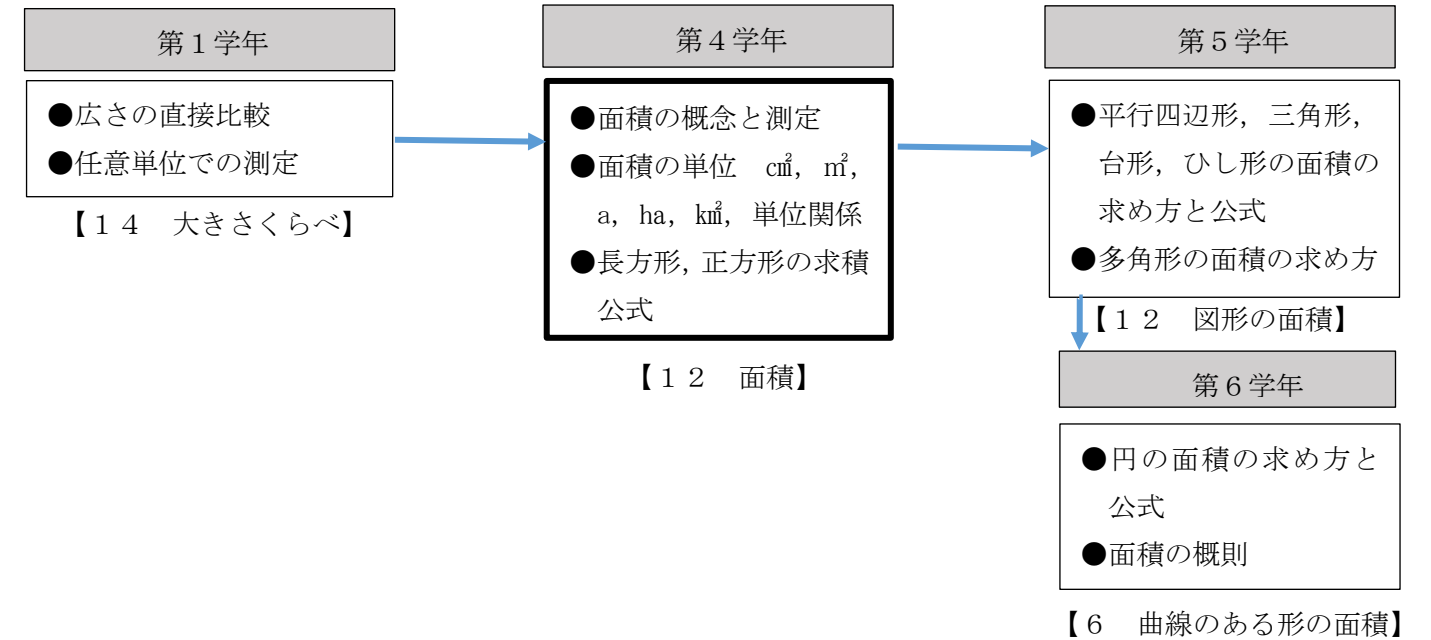
第3学年

児童はこれまでに、円や球については、第1学年で「まる」とか「まるい形」、「ボールのような形」という言葉を使いながら初歩的概念にふれ、円を直観的に捉えている。また、材質や形の大小に関係なく円や球を弁別する学習をしている。このような活動を通して、児童は、ものの色、大きさ、位置や材質を捨象して、形を認め、形の特徴について捉えることができるようになっていたり、図形に対する感覚を豊かにしたりしてきている。

そこで、本単元では、その直観的な理解を基にしながら、円についての用語や作図の道具を用いて正しく表したりかいたりする。また、用語を基にして形を認めることができるようにすることもねらいである。図形概念を伸ばすためには、対象となるものを抽象化していく考えが大切であるため、単なる説明や用語の指導とならないように留意したい。

これらの学習は、第5学年の「正多角形と円」、第6学年の「曲線のある形の面積」へと発展していく。

第4学年 「面積」



第4学年

児童はこれまでに、校庭が広い、トイレがせまいなど日常生活の様々な経験の中で、広さを量として捉えてきている。第1学年・第2学年で、直接比較や色板並べをして広さを比べたり、敷き詰めたり、身の回りの具体物の中にある面を写し取ったりして、広さの素地ともいえる学習をしてきている。さらに、長さやかさ、重さなど、任意単位を用いてその個数で数えたり、普遍単位を用いて表したりする学習をしてきている。このような活動を通して、児童は、量感を豊かにしたり、測定の考えや単位の考えを高めたりしている。

そこで、本単元では、面積の概念や面積を測定することの意味を理解し、普遍単位を導き出して長方形や正方形の面積を求めることができるようになることをねらいとしている。また、重ね合わせて比較したり、1辺1cmの正方形を敷き詰めたりする活動を通して、基準となる量のいくつ分かを数値化する測定の考えを更に伸ばしていこうとするものである。さらに、求積公式を導き出したり、身近なものの面積を調べたりする活動を通して、式の考えを培ったり、面積の大きさについての量感を豊かにしたりしていく。

これらの学習は、第5学年の「図形の面積」、第6学年の「曲線のある形の面積」へと発展していく。

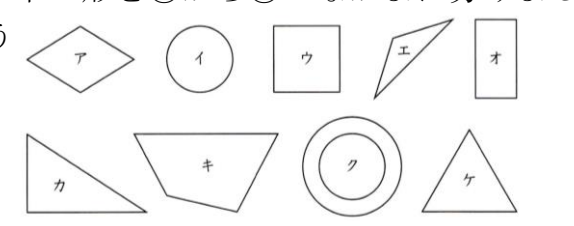
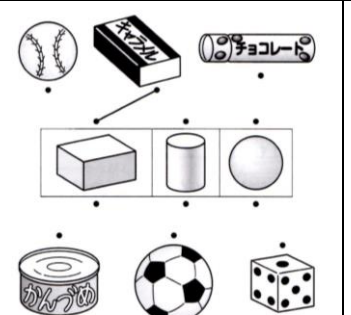
(2) 指導の基本的な立場

第3学年

まず、小単元「円」では、児童の直観的に捉えた考え方などを見直させながら、確かな理解にしていく。また、この過程で、円の特徴を明らかにしていく活動を通して、帰納的に考えたり、抽象的に考えたりする思考などを育む。そこで、1点から等距離の点を取らせ、その点を密にしていく活動を通して、1点から等距離にある点の集合という円の定義や性質を知らせ、円の中心、半径、直径という用語を理解できるようにする。さらに、作図や、紙で作った円を折って円の中心を見付けたり、コマ作りをしたりするなどの算数的活動を通して、半径や直径は無数にあることに気付かせる。

そして、小単元「球」では、円の学習で学んだことを関連させ、より直観的な捉え方を明確にさせていく。そのため、いろいろなボールのような形の真上や真横から見た形を比べさせたり、球の立体模型を操作させたりして、球の直径、半径、中心という用語と、球の直径の測り方を理解させる。ここでも操作を重視する指導の展開を目指したい。

(3) 児童の実態

調査内容	3年生	正答率	誤答例
【調査1】 構成要素に着目して、平面図形を分類する。	下の形を①から④のなかまに分けましょ う 	(完答) 63%	①エを仲間に入れていない。 ②ア、キを仲間に入れていない。 ④ウ、オを仲間に入れていない。
	①三角形のなかま ②四角形のなかま ③まるのなかま ④直角のある形	正解 (エ, カ, ケ) 25% 正解 (ア, ウ, オ, キ) 100% 正解 (イ, ク) 38% 正解 (ウ, オ, カ)	
【調査2】 立体図形について、具体物からその特徴をとらえる。	同じ形のなかま: 線でむすびましょ 	100%	

【考察】

第3学年

【調査1】では、円の形については理解していると言える。しかし、三角形や、四角形、直角については定着していないので、単元に入る前に今一度、頂点、辺、面、直角といった図形の構成要素の復習が必要である。【調査2】では、図形の具体的な特徴についてはよく捉えていることが分かる。

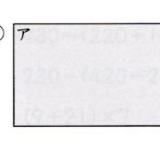
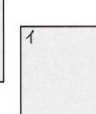
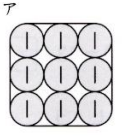
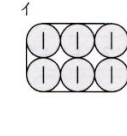
以上の調査から、児童は円や球を概ね理解していると言える。

第4学年

小単元「面積」では、広さを比較することを通して、面積の意味と測定の意味について理解できるようにする。まず、直接比較からはじめ、ブロックの区切りを1辺とした正方形の数による数値化での比較で、面積の概念をつかませる。そして、1辺1cmの正方形を数えることを手掛かりとして面積を調べさせる。また、同じ面積で違う形をかく活動を通して、面積は切って動かしても保存されることを理解させる。

次に小単元「長方形と正方形の面積」では、長方形、正方形の面積は単位面積のいくつ分であるかを手際よく見付ける方法を公式にまとめる学習から、長方形、正方形の面積は縦と横の辺の長さをかけた計算によって求めることができることを理解させる。1cm²の正方形を敷き詰めることによる数値化であるが、実際に敷き詰めていくよりも、整然とぴったり正方形に並んだ数の数え上げ方と乗法を関連させて、求積公式を導き出していき道筋をとる。求積公式は覚えさせるものというよりも、十分に工夫させたり、慣れさせたりすることを通して、正しく用いることを定着させる。

さらに、小単元「大きい面積の単位」では、面積の単位m², km², a, haや、面積の単位の関係を理解できるようにする。まず、m²を扱い、教室と図書室の面積の違いを調べるなどの算数的活動を通して、面積の学習が日常生活に役立つものであることを実感させる。そして、校庭や畑、飛行場などの面積は、更に大きな単位であるkm²や a, haを使うと便利であることを分かるようにする。単位は、その相互の関係を正しく捉えていることが大切である。長さの単位間の関係を基に、面積の単位間の関係を考察させることで、その違いと理由を理解できるようにする。単位面積の正方形の関係から、単位換算ができるようにしたい。

質問内容	4年生	正答率	誤答例
【調査1】 面積の大きさを、直接比較や任意単位を使って比較する。	どちらが広いでしょうか。 ①  ②  ③  ④ 	100%	
【調査2】 1目盛り1cmの方眼紙を使って、長方形、正方形をかく。	方眼紙を使って、次の図形をかきましょ。 ①辺の長さが3cm, 5cmの長方形 ②1つの辺の長さが4cmの正方形	100%	
【調査3】 長さの単位と量感	次のものの長さやきよりにあてはまる単位をかきましょ。 ①えん筆の長さ 17 () 正答 cm ②黒板の横の長さ 4 () 正答 m ③東京から大阪までのきより 400 () 正答 km	100%	
【調査4】 長さの単位換算	①2m = () cm 正答 200 ②10km = () m 正答 10000 ③308cm = () m () cm 正答 3, 8 ④4700m = () km () m 正答 4, 7	100%	

第4学年

【調査1】から、直接比較と任意比較による比較を通して広さを調べることができていることが分かる。【調査2】では、方眼紙のますの数え方を理解していることが分かる。【調査3】【調査4】から、長さの単位と量感、単位換算を理解していることが分かる。

これまでの長さの学習を生かして面積の学習へとつなげたい。

3 目標

第3学年〔本田 k ン源は、NRT 正答率 75.0%，全国比 114 である。〕

- (ア) 身の回りにある円や球の性質や特徴を調べようとしている。また、円や球のもつ機能に気付き、進んで生活に生かそうとしている。 **【関心・意欲・態度】**
- (イ) 折ったり、重ねたりする操作をもとにして、円や球の性質や特徴を、帰納的に考えている。 **【数学的な考え方】**
- (ウ) コンパスを用いて、決められた大きさの円をかいたり、線分を写し取ったり、模様をかいたりすることができる。 **【技能】**
- (エ) 円や球の定義や性質、それぞれのもつ構成要素の関係を理解している。 **【知識・理解】**

4 指導計画（全10時間）

第3学年				
主な学習活動	児童の意識の流れ	教師の具体的な働き掛け	小単元	時
10～12名くらいで玉入れをするときの条件を話し合う。 かごから等距離に並ぶにはどうすればよいか話し合う。 人数がもっと増えたとき、みんなが立つ位置がどんな形になるかを考える。	みんなが同じようにかごに玉を入れやすくするためには、どうすればよいだらう。 かごまでの長さがみんな同じになればよさそうだ。	○ かごから近い人、遠い人がいることに気付かせる。	円⑥	1
1点から3cm離れた点をたくさんかく。円をかく道具を考え、まるい形をかく。「円」の定義、「中心」「半径」の意味を知る。 校庭に半径2mの円をかく。紙を4つに折って、円を作る。	手ぎわよくまるい形をかくには、どんな道具を使ってかいたらよいだらう。 ものさしや、ひもなどを使えばいいかも。	○ かき込む点の数を多くして、点と点の間を狭くしていくと、点と点がつながることに気付かせる。 ○ 円をかくために必要な機能について考えさせる。		2
コンパスを使っていろいろな大きさの円をかく。 「直径」の意味を知る。 コンパスを使って、直線を等間隔に区切ったり、直線の長さ比べをする。	コンパスを使ってかこう。 コンパスで、線を移動させたり、線を同じ長さに区切ったりすることができそうだ。	○ コンパスの使い方の細かな指導・個別指導を十分にする。		3
円を折る活動を通して、直径の性質について調べる。	円をびったり重なるように折った線は直径になりそうだ。	○ 実際に円を切りぬき、折ったり、線を引いたりして調べさせる。		4
円の中心の見つけ方を考える。 コンパスを使って、いろいろな大きさの円をかく。	何が分かれば同じ円がかけられるだろう。 中心が分かればかけるかも。	○ いろいろな方法で何度も試せるように円をたくさん準備しておく。		5 本時
コンパスを使ってきれいな模様をかく。	円の一部を組み合わせて模様がかけそうだ。 中心はどこだろう。	○ 円がいくつ組み合わされているか、中心はどこか、半径の長さはどうなっているかを考えさせる。		6
球をいろいろな方向から見ると、どんな形に見えるか考える。 球の定義と構成要素を知る。 球の切り口がいちばん大きくなるのはどんなときか考える。 球の直径の調べ方を考える。 身の回りから球の形をしたものを探す。	ボールのような形は、どこから見ても円に見える。 円には、中心や直径、半径があったから、球にもあるのではないかな。	○ 実際に転がしてみても、球と球でない立体との違いを比べさせる。 ○ 円と関連させて、球の直径・半径・中心を捉えさせる。	球①	7
球の半径や直径の性質を使って、箱の大きさを求める。	何が分かれば箱の大きさが分かるだろう。	○ 箱の縦、横、高さは、それぞれボール何個分の長さで等しいかを考えさせる。	チャレンジ①	8
既習事項の理解を深める。	ここまで学習してきたことをまとめて、練習してみよう。	○ 円の構成要素や性質、作図の仕方を確認してから取り組ませる。	練習①	9
既習事項の確かめをする。	これまでの学習を生かして問題を解こう。	○ 個別に丸付けをし、理解度をみるとともに、賞賛や助言の声掛けをすることで学習したことへの達成感を味わわせる。	力だめし①	10

第4学年〔本単元は、NRT 正答率 29.3%，全国比 62 の重点単元である。〕

- (ア) 面積の大きさを数値化して表すことよさに気付き、いろいろな形の面積を求めようとしている。 **【関心・意欲・態度】**
- (イ) 広さを数値化する方法を考えたり、測定する広さに応じた面積の単位や求め方を考えたりしている。 **【数学的な考え方】**
- (ウ) 長方形や正方形の面積を公式を使って求めることができる。 **【技能】**
- (エ) 面積の単位と測定の意味が分かり、面積の求め方や単位の関係を理解している。また、面積の大きさについての豊かな感覚をもっている。 **【知識・理解】**

4 指導計画（全10時間）

第4学年				
主な学習活動	児童の意識の流れ	教師の具体的な働き掛け	小単元	時
それぞれの場面に適した広さ比べの方法を考える。 長方形や正方形の花壇の広さ比べをして広さを数で表す方法を考える。 面積の意味を理解し、単位となる広さのいくつかで表すことを知る。	どうやって比べればいいのかな。	○ 第1学年における学習や、長さ、かさのはかり方を想起させる。	面積②	1 本時
1cm ² の正方形の数を数えて面積を求める。 いろいろな1cm ² の図形を知り、工夫してかく。 面積が12cm ² の図形をかく。	どれだけ広いかを比べるには、同じ広さのものをしきつめてみたらいいかも。	○ 前時に学習した正方形の敷き詰めで調べられることに気付かせる。		2
長方形の面積の求め方を考える。 1cm ² の正方形の数が、縦に何個、横に何個かで求められることを知る。 長方形の面積の求め方を公式化する。 正方形の面積の求め方を公式化する。	簡単に面積が求められないかな。	○ 1cm ² の単位面積を基にして、その何個分で考えればよいことを確認させる。 ○ 1つ1つ数えるより乗法の方が効率的であることに気付かせる。	長方形と正方形の面積③	3
必要な辺の長さを測り、長方形や正方形の面積を求める。 面積と横の長さが分かっている長方形の縦の長さを求める。	どこの長さが分かれば面積を求めることができるかな。	○ 図形をよく観察させ、図形のどこを測れば面積を求めることができるか考えさせる。 ○ □を使って立式させる。		4
複合図形の面積の求め方を考える。 複合図形の面積を、長方形や正方形の和や差で求める方法を理解する。 どの方法がいつでも使えるか話し合う。	1cm ² の正方形をしきつめてみたり、切ったり、引いたり、組み合わせてみたりしたら求められそうだ。	○ 方眼ノートに図をかかせて考えさせる。 ○ いつでも使える考え方を検討させる。		5
1辺が1mの正方形を作り、面積の単位1m ² を体感する。 1m ² =10000cm ² であることを図や計算から確かめる。	花壇のような広さはm ² を使えばよさそうだ。 他の単位との関係はどうなっているのだろう。	○ m ² も面積の単位であることを確認させる。 ○ 具体的に理解できるように、図に表す。	大きい面積の単位③	6
畑の面積を考え、面積の単位aを知る。 aを用いて面積を求める。 牧場の面積を求め、面積の単位haを知る。 haとaの関係を考える。	畑のような広さはaを使うとよさそうだ。 他の単位との関係はどうなっているのだろう。	○ 実際に教室の広さを測ることで、1aの量感をもたせる。 ○ 具体的に理解できるように、図に表す。		7
飛行場の広さを求め、面積の単位km ² を知る。 km ² とhaの関係を理解する。 正方形の1辺の長さから面積の単位の関係をまとめる。	飛行場のような広さはkm ² を使えばよさそうだ。 他の単位との関係はどうなっているのだろう。	○ 身近なものと比較して、飛行場の広さを量感として意識させる。 ○ 具体的に理解できるように、図に表す。		8
長方形を組み合わせた形の面積を求める方法について話し合う。	どの考えが使えるだろうか。	○ 考えを十分に交流させ、いつでも使える簡単な方法を見つけ出させる。	チャレンジ①	9
既習事項の理解を深めた後に、確かめをする。	これまで学習してきたことをまとめて、練習しよう。 これまでの学習を生かして問題を解こう。	○ 広さによる単位、公式の意味、作図の仕方を理解しているか確認してから取り組ませる。	練習① 力だめし①	10

5 本時 (第3学年: 5/10, 第4学年: 1/10)

(1) 目標

[第3学年]

(ア) 直径の性質を基にして、円の中心の見付け方を見出し、円をかくことができるようにする。

(2) 視点

【視点①】一人学びの力を育てる複式指導の充実 【視点②】とも学びの力を育てる複式指導の充実

(3) 展開

○: 学習課題 □: 学習課題 ○: 教師の指導 (直接指導, 間接指導) ◆: 評価項目 T: 教師の言葉掛け C: 子どもの発言 G: ガイドの言葉掛け 【考】: 数学的な見方・考え方

[第4学年]

(ア) 広さの比べ方を考えることができるようにする。(イ) 任意の単位をもとにして広さを表し、比べることができるようにする。

【視点③】学習環境の工夫

G: ガイドの言葉掛け

C: 子どもの発言

♡: 人権同和教育的活動

●: 基礎基本の定着

【視点○】: 研究仮説の視点の実践

教師の指導	主な学習活動 (第3学年)	過程	位置	過程	主な学習活動 (第4学年)	教師の指導
<p>○ 円の直径や中心の理解を深めるために、前時の学習を振り返らせる。</p> <p>○ ノートを基に前時の学習を振り返らせ、本時の学習内容や学習課題を確認させる。</p> <p>○ 本時のめあてをつかませるために、活動目標を掲示する。【視点③】</p> <p>○ 「正確に」、「できるだけ手間を少なく」円をかくという観点で考えられるようにする。【考】</p> <p>○ 見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるように、学習計画進行表を示す。【視点①】</p> <p>○ 学習計画進行表は、後からも確認できるように視覚的に示す。【視点①】</p> <p>○ 既習事項を生かしながら一人学びを進められるよう、既習事項を掲示する。【視点①】【視点③】【考】</p> <p>○ 活動が停滞しがちな児童のために、ヒントを準備しておく。【視点①】</p> <p>○ 児童がいろいろな方法で何度も試せるように、円をたくさん準備しておく。【視点①】【考】</p> <p>○ 中心や直径を見付けた過程をノートに記録するようにさせる。</p> <p>♡ 早く済んだら、活動が停滞している友だちにヒントを出すよう促す。【視点①】【視点②】</p> <p>○ とも学びを円滑に進められるように、「ガイド学習の手引き」や「伝え合う際のポイント」を活用させる。【視点②】</p> <p>◆直径の性質をもとにして、円の中心の見付け方を見出すことができたか。</p> <p>○ 本時の学習を学習問題から振り返りまとめていく。</p> <p>● 本時の学習の内容を定着させるために、練習問題を解かせる。</p>	<p>1 既習事項の確認プリントをする。 G: プリントの問題に取り組んでください。</p> <p>2 本時の問題を受け止める。 この円とそっくり同じ大きさの円をかきましょう。</p> <p>3 めあてを焦点化する。 T: 何が分かれば、この円と同じ円がかけられるでしょうか。 C: 中心が分かればいい。 C: 半径が分かればいい。 C: 直径の見当をつければかけるかも。</p> <p>どうしたら円の中心を見つめることができるだろうか。</p> <p>4 学習の進め方を確認する。 ① 解決の見通しをもつ。【5分】 ② 自分なりの方法で解決し、説明する。【一人学び(10分)→とも学び(5分)】 ③ 自分の考えを発表する。【みんな学び(10分)】</p> <p>5 解決の見通しをもつ。 G: 解決するための見通しを立てます。何か良い方法はないですか。 C: 切ってみたらいいと思います。 C: 切って折ると、直径が分かると思います。 C: 直径をちょうど半分に分けたところが円の中心だから、半径も分かります。</p> <p>6 一人学びをする。 G: 学習の進め方をもう一度確認します。活動内容は②、③です。それでは、一人学びを始めてください。時間は10分です。</p> <p>7 とも学びをする G: とも学びを始めてください。時間は5分です。</p> <p>8 みんな学びをする。 G: どのようにまとめましたか。自分の考えを発表してください。</p> <p>9 本時の学習のまとめをする。 円の中心は、円を2回いじょうおると見つけることができる。</p> <p>10 練習問題に取り組む。 ○ 直径が分かっている円の作図をする。</p> <p>11 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。</p>	<p>つかむ</p> <p>つかむ</p> <p>見通す</p> <p>調べる・深める</p> <p>調べる・深める</p> <p>まとめる・振り返る</p>	<p>8分</p> <p>6分</p> <p>10分</p> <p>10分</p> <p>10分</p> <p>1分</p>	<p>つかむ</p> <p>見通す</p> <p>調べる・深める</p> <p>まとめる</p> <p>振り返る</p>	<p>1 本時の問題を受け止める。 20このブロックでまわりをかこんで、長方形や正方形の花だんを作しましょう。</p> <p>T: 20このブロックで次のような花だんが作れます。他にも作ってみましょう。 C: このような花だんが作れました。</p> <p>2 めあてを焦点化する。 T: どの花だんが広いでしょう。 広さをくらべるには、どうしたらよいだろうか。</p> <p>3 これまでの学習を基に、方法を予想する。 ○ 切って重ねて比べる。 ○ 同じ大きさに区切って数えて比べる。</p> <p>4 学習の進め方を確認する。 ① 自分なりの方法で解決し、ノートに書く。【一人学び(10分)】 ② 自分の考えを発表する。【みんな学び(10分)】</p> <p>6 一人学びをする。 G: 一人学びを始めてください。時間は10分です。</p> <p>7 みんな学びをする G: どのようにまとめましたか。自分の考えを発表してください。</p> <p>8 本時の学習のまとめをする。 広さをくらべるには、切って重ね合わせて、はみ出した部分をくらべたり、ブロックの長さを1辺とする正方形の数でくらべたりするとよい。</p> <p>9 面積の意味を知る。 T: 切って重ねて比べるのと、数で比べるのは、どちらが比べやすいですか。 C: 「何がいくつ分なのか」と、広さを数で表すと、比べやすいことが分かりました。 T: 広さは線で囲まれた内側の大きさです。広さを数で表したものを「面積」と言います。</p> <p>10 本時の学習を振り返り、次時の学習内容を知る。</p>	<p>○ 本時の学習課題を掲示して全員で読む。</p> <p>○ 本時のめあてをつかませるために、活動目標を掲示する。【視点③】</p> <p>○ ノートに図をかかせたり、ブロックを動かしたりして、20個のブロックを使って長方形を作らせる。</p> <p>○ 周りのブロックの数が同じでも、形によっていろいろな広さになることに気付かせる。【考】</p> <p>○ 「切り取って重ねて」、「敷き詰めて」、「任意単位で」、「対角線の長さで」比べる等、多様な比べ方を体験させる。【考】</p> <p>○ 見通しをもって主体的に学習に取り組むことができるように、学習計画進行表を示す。【視点①】</p> <p>○ 学習計画進行表は、後からも確認できるように視覚的に示す。【視点①】</p> <p>○ 既習事項を生かしながら一人学びを進められるよう、既習事項を掲示する。【視点①】【視点③】【考】</p> <p>○ 活動が停滞した際は、ヒントを準備しておく。【視点①】</p> <p>○ 広さを比べた過程をノートに記録するようにさせる。</p> <p>○ みんな学びを円滑に進められるように、「ガイド学習の手引き」や「伝え合う際のポイント」を活用させる。【視点②】</p> <p>◆ 広さ比べに関心をもち、比べ方を考えようとしているか。</p> <p>◆ 長さや重さでの比べ方の方法を生かして、数値化して比べる方法を考えることができたか。</p> <p>○ 本時の学習を学習問題から振り返りまとめていく。</p> <p>○ 1年の学習や、長さ、かさの測り方を想起させる。</p>

(3) 評価 (ノート・発言)

(ア) 直径の性質を基にして、円の中心の見付け方を見出し、円をかくことができたか。

(ア) 広さの比べ方を考えることができたか。

(イ) 長さや重さでの比べ方の方法を生かして、数値化して比べる方法を考えることができたか。